運営主導・段階取得型 事業再生スキーム（概要）

― ひるがみの森 再生事例 ―

■ スキームの目的

法的整理や即時売却に依らず、事業価値・雇用を維持しながら再生可能性を検証し、最終的な解決（取得・整理）につなげることを目的としています。

■ スキーム構造（要点整理）

主体	役割
現オーナー（大家）	不動産を保有／既存借入を継続／経営から一旦退く
運営会社（子会社）	雇用承継／運営・意思決定／売上・利益の帰属
親会社（旅と館）	再生ノウハウ提供／経営管理／将来の取得主体
金融機関	既存融資を維持／返済原資＝賃料

■ 再生プロセス

① 所有と経営を分離し、運営リスクを限定
② 子会社設立・事業譲渡により雇用を承継
③ 収益改善 → 賃料支払いにより返済原資を確保
④ 業績確認後、不動産・事業を取得（最終解決）

■ 金融機関メリット

・破綻処理を回避しやすい
・返済原資が事業収益として明確
・雇用・地域経済への影響を最小化
・再生可否の早期判断が可能

※ 本スキームは金融機関・公的機関からのご相談を起点としています。